月舘町という地名は、「月見舘」という舘の名前から生れました。江戸時代までは、各地にお城があり殿様がいて、藩（今の県にあたる）を治めていたのです。今から200年ほど前には、下手渡に陣屋（城をもたない大名の屋敷）を開いた殿様がおりました。

手渡の殿様

ずーっとむかし、はるばる九州は三池から下手渡に来た殿様がいました。この殿様・立花豊前守種善は、幕府の命令で下手渡藩十カ村一万石を治めることになったのです。殿様の陣屋は、二階建ての御殿をはじめ、神社、御用部屋、武器庫、穀倉、学問所、侍部屋などが建ち並ぶ、りっぱなものでした。ここでの藩政は、文化3年（1806）から明治元年（1868）まで三代、62年間続きます。

二代目の殿様・立花主膳正種温は、天保の大飢饉の時も死者を出すことなく、領民に慕われました。

三代目の殿様・立花出雲守種恭の時、明治維新となりました。その後幕府と政府の争い（戊辰戦争）で、陣屋は焼かれ、殿様は三池へ帰っていきました。

やがて、藩政は県政に変わり、侍も殿様も姿を消しました。陣屋跡地（今は桑畑）に、旧藩士が殿様をしのんで建てた懐古之碑があり、「手渡の殿様とご陣屋の物語」を静に伝えています。